



広 報 資 料

問い合わせ先

第一管区海上保安本部 海洋情報部

海洋調査課長 霜鳥 史郎

TEL 0134-27-0118 (内線2530)

巡視船そうやによる海氷観測の結果概要について ～ 2月中旬の海氷の勢力は平年並み ～

オホーツク海南西海域において、2月11日から15日にかけて、砕氷機能をもつ「巡視船そうや」（3,100トン、釧路海上保安部所属、船長 上河内 信義）により、海氷観測を実施しましたので、観測結果の概要をお知らせします。

1 観測の概要

- (1) 観測期間：平成28年2月11日～15日
- (2) 観測海域：宗谷岬付近～サロマ湖沖（別紙1 観測海域図参照）
- (3) 観測内容：搭載航空機による海水分布状況の目視観測及び写真撮影
塩分水温計による調査、超音波式流向流速計による流況調査
（別紙1 写真参照）

巡視船そうやによる観測活動及び海氷域の動画を当本部海洋情報センターのホームページ（海氷関係資料）に掲載

http://www1.kaiho.mlit.go.jp/KAN1/drift_ice/observation/2017/top.html

2 観測結果の概要

- (1) 海氷勢力：①サロマ湖沖70km付近には大きな氷（中氷盤）が多く、沿岸付近では発達過程で形成される薄い氷（晶氷、ニラス、はす葉氷、板状軟氷）が存在した。その他の区域は小さな氷（板氷、砕け氷等）が広く分布していた。（別紙2 写真参照）
②巡視船そうやによる海氷観測実施期間の海氷状況（分布、海氷密接度）について、過去10ヶ年でみると今季の勢力は平年並みであった。（別紙3-1 別紙3-2 参照）
- (2) 水温分布：2015年～2016年にかけて、宗谷岬から雄武の沿岸部の観測点では、水深10m層での水温上昇の傾向が見られ、そのため沿岸付近の海氷勢力が減少していたが、今季は日本海から流入する暖流（宗谷暖流）の影響が少なく、2013年以前と同様に宗谷付近の観測点では+2℃台、他の観測点は-1℃台の水温となり、その結果沿岸部の海氷勢力も平年並みの傾向となった。（別紙4～5 参照）

3 海氷観測画像等の提供

今回の海氷観測の結果概要については、当本部海氷情報センターのホームページに掲載しております。また、海氷の分布状況を海氷速報として毎日提供していますのでご利用下さい。

<http://www1.kaiho.mlit.go.jp/KAN1/lcenter.html>